（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人　元気の里とかち		
事業所名	グループホーム　彩　～いろどり～（こむぎ・あずきユニット）		
所在地	北海道　河東郡　音更町　ひびき野　仲町1丁目9番地5		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700217-00&Se

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

旧事業所の建物の老朽化もあり　令和2年3月末　現在の場所に新築し移転　1ユニットから2階建ての2ユニットになりました。設備も新しく　現在は活用されていないが憩いの場として今後活用の可能性がある喫茶スペースもあります。夜間の入眠状況等の把握できる【眠りスキャン】システム全ベッド導入しています。家族様も登録すれば自身のスマホからいつでもどこでも介護記録を観覧できるシステムの導入しています。職員の半数以上が近隣地域の職員でありベテランから未経験者まで在籍しています。外出が難しいなか施設内での行事やイベントの充実に力を入れています。入居者様　一人一人の笑顔を大切にその人らしく過ごせるよう　職員一同チームで協力し合ってお手伝いさせて頂いています。今後は地域とのつながりに力を入れて行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4−1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は毎年職員会議で話し合い決めているリビングに貼りだし共通認識できている。 地域に密着した実践はコロナ禍の為行えていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度　移転したことで町内会も替わっています。庭や散歩の際は挨拶しています。町内のゴミ拾い行事には入居者・職員と1度参加したが　行事もほとんどが中止となり地域との交流は図り切れていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為　地域との関わりも難しく貢献できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため令和２年3月より中止している。 (議事録のみ作成）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録による報告、毎月待機者数の報告　他　電話やメールにて主に管理者が実施している。12月18日　町より実地指導受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として　委員会を開催し該当するケースはないか　マニュアルについての検討　グレーな行為など話し合っている。(当事業所としても3名参加)。毎月の会議でフィードバックしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の研修で年に2回研修会を実施。またWEB研修でも身体拘束について　各自　学習している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在　入居されている方で社会福祉協議会の成年後見人がつき　支援を受けている入居者がいる。WEB研修にての研修のみ　学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については　管理者が対応している。入居時に説明を行いご理解頂いてから承諾を頂き署名捺印してもらい　個人ファイルにて保管している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見要望は記録におとし必要あれば職員会議でも検討している。事業所自体で何かあれば管理者が主に対応。玄関に　エリア長　法人事務　町の福祉課の相談窓口の電話番号を掲示。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や年に数回の個人面談　年に1回の理事長面談などで意見を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理システムで勤務状況を把握に努めている。 人事考課制度を活用し　会議や研修への参加等も把握　個人面談にて各職員に意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員には手当が支払われる仕組みがある。法人としては年6～7回の研修が開催されている。今年度よりWEB研修も始まり　各職員によってプログラムが構成されており　ネット環境があれば職員が自宅でも研修受けれるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉に携わる人や地域の方との交流や学習の機会としての地域のケアカフェに管理者が実行委員として参加。コロナ禍のため　今年度は定期的な会議による検討はしたが　活動までには至る事ができなかった。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に　本人・家族様と面談(できない場合は電話にて)行い　関係機関からも情報収集行い職員に周知している。入居後は積極的にコミュニケーション図り記録を活用して情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談では様々な事柄を確認してご家族様との信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談では様々な事柄を確認してご家族様との信頼関係を構築できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調に留意しながらも　出来る事は自身でして頂いている。掃除や調理　食器洗い等も　その方の意欲と能力に応じて安全に取り組めるよう一緒に行いながら支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により　面会制限中にて不安を抱えている方もいる　電話での交流や職員からの近況報告。またその方の介護記録がどこでも観覧できタイムリーに家族も入居者の事を把握されている。食べ物の差し入れや　ガラス扉越しの面会等できる事をして下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にその方の生活歴や　家族構成　馴染みの暮らし等情報うかがっている。 又日々の会話の中でも若い頃や大切な事　場所等把握に努め　ドライブで訪れたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の会話で共有できる話題の提供やレクリエーションや行事を通して利用者同士が交流を図れるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで契約が終了したかたから、相談を持ち掛けられたことはないが　使っていない物の寄付は頂いたことがある　　相談を受けた時は対応して行く。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好みや生活への希望　これまでの生活パターンを大切にしながら安心して暮らしていくお手伝いをしています。帰宅願望等　難しい方は声掛けを工夫しながらその旨伝えている。日々の要望や変化は　申し送りや会議にて検討し対応している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の生活歴や　家族構成　馴染みの暮らし等情報うかがっている。 又日々の会話の中でも若い頃や大切な事　場所等把握に努め　ドライブで訪れたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員によるADL表の作成や活用し状況や認知・精神状態　体調等記録に残し共有と把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や変化があった際は随時本人やご家族様の意見をお伺いし　サービス担当者会議にて話し合いその結果をまとめ、計画作成担当者が作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スマホによる介護記録システムにより　動画や写真も　記録に残せ　以前より情報の共有化がしやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時にはサービス内容の変更も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍中での移転でもあり　より近くの地域の資源は把握しきれていない　以前は地域のボランティア(慰問や会話)活用していたが中止中。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に受診できるよう情報の提供や必要時家族と協力しながら送迎の支援している。また　希望や負担がある場合は訪問診が受けれるよう相談や助言等適時行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者全員を対象として週1回訪問看護による健康チェックを受けています。相談や経過報告を行い助言や必要時処置して頂いています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	電話や面談　フェイスシートを活用し　情報交換や相談を行い関係つくりに務めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に　意向を伺っています。また本人に変化がある時は随時報告を行い　必要時には話し合いの場を設けています　支援については日々の記録や職員会議で共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の研修を法人で開催している。また、簡易的な　急変時　救急車要請マニュアルを職員の目につくところに貼っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は火災想定訓練を1回実施　年度末にも訓練を予定している　2階建てになり　階段での避難用として簡易担架を準備　使用しての訓練を今後予定。地域との協力体制は構築できていない。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性や性格を把握し尊重した声掛けを行うよう努めているが　くだけた言葉使いになってしまう事もあり　接遇面に課題もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の希望や本人の思いをお聞きしています。意思表示が難しい方にも選択肢で質問したり可能な限り実現できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事などご本人様の意思や体調に配慮し時間をずらして再度勧める等のの対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容が受けられるよう支援したり　汚れた服の交換　自身で髪を結うのが難しい方へのお手伝い　等支援しています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で好みを伺い献立に取り入れたり、野菜の皮むきや調理　盛り付けなど　安全に衛生的に行えるよう職員と一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日　食事や水分の摂取量や月一回体重測定を実施。 随時　代用品や好みの物　体調にあわせた食事形態にするなど工夫しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年一回　提携歯科からの検診や必要時通院や訪問診療のよる治療が受けれるよう支援しています。歯科からの助言を元に本人に合ったケアを提供しています　断られ　必要な支援の提供が難しい方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行くことができない方や尿意や失禁に気付くのが難しい方には時間の感覚を見ながらお手伝いしています。記録を活用しながら失禁量や間隔の把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医への相談や訪問看護師への相談や助言・処置等協力も得ながら、下剤の内服や　オリゴ糖の使用　粉末ファイバー等取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を固定せず　その方の気分やタイミングに可能な限り対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあわせて季節での掛物の交換や　休息が必要と思われる方にはお部屋で休めるよう声掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局に相談したり　助言を受けている。 記録システムに現在内服している薬剤の情報も登録しているため　職員はいつでも確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や日々のレクリエーション・体操等を通して気分転換や季節を感じられる支援しています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マスクなどの対策をして　近所の散歩や　ホームのベランダでの日光浴　ドライブ等　支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額はほとんどが家族が管理されている。少額程度所持されている方は数名の他お小遣い程度を施設が管理している　必要時買い物の代行や支払い等支援を行い　出納帳に記録しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は　ご家族様に配慮しながらも見守りやお手伝いしています。耳が遠い方にはハンズフリーやビデオメッセージ等で支援しています。 お手紙も返事を出せるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り物の設置、湿度・温度の調整。トイレやお部屋等解りやすくする工夫をしています。 飛沫対策として　食事テーブルにパーテンションを設置中、居心地よくはないが　ご時世的に仕方ないと受け入れてくださっているかたも数名。リビングにトイレあり　使用者が閉めず　不快な思いが聞かれる事もあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全に配慮して廊下に一休みできる椅子を設置したり　　食事以外は好きな所に座ってお話したりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談で馴染み家具があれば用意して頂く様お伝えしている　お部屋の		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお部屋に気付きにくい方にはご案内したり　文字での解りやすい表示　目線などにあわせた位置で等示しています。		